

図書館には図書、雑誌、神奈川資料、新聞、視聴覚資料、インターネットといったたくさんの情報のとびらがあります。そのとびらを開いて、時事的な話題を複合的な視点から紹介します。

い のう ただ たか
伊能忠敬 没後200年

平成30年は伊能忠敬が亡くなってから200年目の年です。伊能忠敬といえば、江戸時代に日本中を測量してまわり、初めて実測による日本地図を完成させた人です。節目の年ということで千葉県香取市にある伊能忠敬記念館では記念の事業や展覧会が企画されています。記念の銅像も建立されました。かつて行われた「伊能ウォーク」やドラマや映画にも取り上げられたことを御存じの方もいらっしゃるでしょう。測量の功績もそうですが、人生後半になってから今までとは全く違うことに挑戦した意気込みにも注目したいものです。今回は、伊能忠敬に関する資料をご紹介します。

 **図書のとびら**

書名・内容	著者等	出版者	出版年	請求記号 (資料番号)
<p>『天と地を測った男 伊能忠敬』 1800(寛政12)年閏4月19日(現在の6月11日)小雨模様の朝、江戸深川から伊能忠敬は蝦夷地測量への第一歩を踏み出しました。その後の生涯をすべて測量にささげ、完成させた「大日本沿海輿地全図」は、現在の地図と変わらないほど正確なものでした。幼い頃から算法が得意で、伊能家の当主として家を収め、家督を長男に譲った後に天文暦学を学び、地球一周にも等しい距離を実測した忠敬の生涯が綴られています。著者は長年小学校の教職にあった人で、忠敬の子ども時代を詳細に書いています。また人柄についても多く触れています。人生を「もう…」ではなく「まだ…」という気持ちで歩む人がいますが、忠敬はその代表的な人物です。本書は児童向けの読み物ですが、人生への向き合い方を考えるうえで大人にもお勧めします。</p>	岡崎ひでたか 作 高田勲画 伊能忠敬記念館監修	くもん出版	2003	289/1 (81020596) 県立書庫
<p>『忠敬と伊能図』 伊能忠敬の人と仕事を知るための一冊です。はじめに座談会で「伊能忠敬一人と仕事」について伊能家、国土地理院院長、伊能忠敬研究会の3人が語っています。そして「忠敬の時代」、「伊能忠敬再発見」で伊能図ができあがっていく時代背景や忠敬の人柄について書かれています。また伊能家にあった測量器具は子どものおもちゃになったなど興味深い話もあります。伊能図の種類、測量器具や測量の方法、伊能図の与えた影響について、また忠敬は生涯で四人の妻がいたのですが、その妻たちのことも書かれています。付録として忠敬が歩測を練習した道(深川から浅草)の鳥瞰図も付いています。</p>	伊能忠敬研究会編	アワ・プランニング	1998	448.9/118 (21384615) 県立書庫
<p>『伊能図に学ぶ』 本書は、東京地学協会が伊能忠敬生誕250年の記念事業として出版したものです。伊能図は古地図と近現代の地図との境に位置し、独特の性格を持っているそうです。その特性を様々な角度から(測量について、日本と世界の測量史から見た伊能図、忠敬の人間像についてなど)詳細に書かれています。いろいろな方向から見ることで、伊能図に慣れ親しんでほしいという思いで書かれています。巻末には、現存伊能図の一覧表や関連研究文献目録、伊能忠敬『測量日記抄』なども収録されています。</p>	東京地学協会編	朝倉書店	1998	448.9GG/112 (21060066) 県立書庫
<p>『アメリカにあった伊能大図とフランスの伊能中図』 2001年春に発見されたアメリカ議会図書館所蔵の伊能大図模写本(明治以降制作の写し)とフランス人イブ・ペイレ博士所蔵の伊能中図の里帰り展覧会「伊能忠敬の日本地図」、アメリカ伊能大図原寸複製図の「里帰りフロア展」が行われる機会に制作されたのが本書です。この時見つかった207面のアメリカ伊能大図は模写本ながら、国内には約60面しか存在しない伊能大図の現存数を大幅に拡大するものでした。フランスで見つかった中図は8枚もので彩色や描画がよく、完成度の高いものでした。アメリカ伊能大図とフランス伊能中図の基本的な資料として発行されました。</p>	アメリカ伊能大図展実行委員会編	日本地図センター	2004	291.03NN/308 (21906961) 県立公開

『江戸幕府の日本地図』	川村博忠著	吉川弘文館	2010	291.03/327 (22384150) 県立公開
-------------	-------	-------	------	----------------------------------

※伊能図については『伊能図大全』全7巻 (291.03/332/1-7 常置 県立書庫)、『伊能図集成<大図><小図>』(291.03/287 常置 県立書庫)などもあります。

雑誌のとびら

記事名・内容	雑誌名・出版者	巻号・ページ	請求記号
「アイデアを形にした愚直な努力家 伊能忠敬」 松尾 潤 著 この記事は「偉人に学ぶビジネススキル」という連載の一回として仕事をする中で浮かんだアイデアをどのように形にしていけるのか、伊能忠敬を例にとりて書かれています。好きで始めた天文学が、幕府事業となっていくまでに何があったのかポイントがいくつか挙げられています。現代社会では必ずしも当てはまるとは限りませんが、ひとつの考え方として参考になるかもしれません。	『企業診断』 同友館	第59巻第8号 2012年8月 p60～63	Z335/512
「地図作りに賭けた隠居後 伊能忠敬」 田中真澄 著 老後をどう過ごすかという観点から忠敬の生き方を見ています。「一生をして二生を生きる」を具現化した忠敬の人生に学ぶ教訓をいくつか挙げ、人生百年をどう生きたらよいか考えています。この記事は「老後もまた楽しー長寿快老の達人たち」という特集の中のひとつで、他にも老後を充実して過ごした人物のことが書かれています。	『歴史と旅』 秋田書店	第28巻第8号 2001年8月 p100～105	Z210/510
「伊能忠敬が全国測量に出た理由」 伊能忠敬の生まれから、幕府天文方の高橋至時に弟子入りし全国測量に至った経緯、その測量方法。そして幕府や明治政府がその地図をどのように利用したのか。当時の水準をはるかに上回る日本地図を作った伊能忠敬の人物像、生きた時代、100年もの使用に耐えた伊能図について書かれています。この雑誌は「地図を旅する」という特集で、他にも古地図や地形図マニア向けの稀少図など地図の世界へ旅できます。	『kotoba』 集英社	2015年秋号 2015年9月 p122～125	Z051/904

新聞のとびら

記事名・内容	新聞名	掲載日・ページ
「伊能図使ったロードマップ 県立歴史博物館で確認 東海道、色鮮やかに」 江戸時代の測量家、伊能忠敬(一七四五―一八一八)が作成した詳細な日本地図「大図」(三万六千分の一)を基に、幕末から明治初期に作られたとみられる東海道の「ロードマップ」が二十六日、県立歴史博物館(横浜市)で確認された。伊能忠敬研究会名誉代表の渡辺一郎(77)さんが鑑定した。(後略)	神奈川新聞	2007年7月27日朝刊 p21
「伊能忠敬の足跡 後世に 没後200年 湯河原に記念の標柱 宿泊した向笠家など3か所」 江戸時代の測量家伊能忠敬が日本地図を作るために宿泊した湯河原町吉浜のミカン農家向笠進さん(八一)方など町内3か所に、記念の木製標柱(一・五メートル)が立てられた。没後二百年となる命日の十三日、向笠宅前で二百年忌追悼説明会を開催。町によると、忠敬関連の行事は町内初という。(後略)	東京新聞横浜版(全紙製本)	2018年4月16日朝刊 p16
「伊能図 出回っていた？」 没後200年を迎えた江戸時代の測量家、伊能忠敬(いのうただたか)(1745～1818)。日本初の実測によってつくられた日本地図は、その精巧さから幕府の禁制品だったとされてきた。だが、最近の研究で民間知識層に広まっていた可能性も浮上している。(後略)	朝日新聞	2018年6月4日朝刊 p27

インターネットのとびら

タイトル	内容	URL
伊能忠敬記念館	伊能忠敬旧宅の向かい側にある記念館は、1998(平成10)年に建設されました。所在地の千葉県香取市佐原はかつて水運を利用して「江戸まさり」といわれるほど栄えた町で、関東で初めて「重要伝統的建造物群保存地区」に選ばれました。記念館では、忠敬個人のことはもちろん様々な地図のおもしろさ、不思議さをみるができます。	https://www.city.katori.lg.jp/sightseeing/museum/index.html

お問合せ: 神奈川県立図書館 資料部情報整備課
 〒220-8585 横浜市西区紅葉ヶ丘9-2 ☎045-263-5922
 URL: <https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/yokohama/index.html>

